



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	仮称伝馬町マンション 新築工事	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0	/5		ふつつ		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8	/5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.7	/5		がんばろう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3	/5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.0	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ③住宅部分の昼光率2.35%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において昼光を制御しやすくした。 ④タイル貼の耐用年数は40年</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥エントランス庇・庇となる上階およびピロティ部分で日陰をつくり、舗装面積を敷地の31.7%に抑えることで、敷地内温熱環境の向上に配慮した。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨住戸全館でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.96になるように一次エネルギーの消費を抑えた。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪便器は、従来に比べて41%分の節水ができる節水型便器を使用し、節水に配慮した。 ⑬断熱材は、ODP=0の材料を使用し、オゾン層を破壊しないようにした。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率を、一般的な建物の98%となるよう設計した。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	2.8
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰電気設備、機械設備は、浸水の危険性がない。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高は、3.06m~3.16mとし、階高に余裕をもたせた。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑駐輪場を屋内に設置し、アプローチにエントランス庇を設けることで、建築物への出入りがしやすくなるように配慮した。また、建物の1.2階を診療の機能を持たせ、地域住民の健康の向上に貢献できるようにした。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.3
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ⑳エントランス庇・庇となる上階およびピロティ部分で日陰をつくり、舗装面積を敷地の31.7%に抑えることで、敷地内温熱環境の向上に配慮した。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) ㉕敷地西側に植栽および中高木を配置し、地表面対策面積率21.3%分の緑地を確保をし、敷地外への熱的な影響の低減に配慮した。</p>	<p>Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ㉒ まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ㉓ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ㉕ 温熱環境悪化の改善</p>			

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称伝馬町マンション 新築工事)	階数	地上10F
建設地	静岡市葵区伝馬町7-6	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	62人
地域区分	7地域	年間使用時間	XXX時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2021年10月1日
敷地面積	426.08 m ²	作成者	早野 真介
建築面積	287.03 m ²	確認日	
延床面積	2,436.69 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		その他
総合 これは、CASBEE静岡(2016)による評価である。 診療所部分が、スケルトン渡しにつき省エネ計算対象設備がなく、床面積が全体の2割に達していないため、今回は共同住宅の共用部および共同住宅の住戸の2項目として評価する。		特になし
Q1 室内環境 住宅部分の昼光率2.35%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において昼光を制御しやすくした。	Q2 サービス性能 階高は、3.06m~3.16mとし、階高に余裕をもたせた。また、電気設備や衛生設備において、電源設備及び精密機械が浸水の危険性に曝されないように設計した。	Q3 室外環境(敷地内) 1. 2階を診療所とし、地域住民の健康に貢献できるようにした。また、景観条例に従い、静岡駅周辺の景観を形成に貢献した。
LR1 エネルギー 住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.96になるように一次エネルギーの消費を抑えた。 ※診療所は、非常用照明設備しか設置しないスケルトン渡しであり、省エネ計算対象設備がないため、省エネ計算を行っていない。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器を使用し、従来の41%分の節水をした。また、断熱材はODP=0の建材を使用し、オゾン層に悪影響を及ぼさないよう配慮した。	LR3 敷地外環境 敷地西側に植栽および中高木を配置し、地表面対策面積率21.3%分の緑地を確保をし、敷地外への熱的な影響の低減に配慮した。また、屋外に影響する照明について、光害対策ガイドラインの過半を満たし、広告物照明は行わないものとした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される